



● 草の根協力支援型

2017年度第1回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	マレーシア
2. 事業名	マレーシアにおける漁村活性化モデルの構築と推進
3. 事業の背景と必要性	沿岸漁業者集落における所得はすでに貧困レベルであるが、燃料を含む物価の上昇で生活がより困難となっている。一方で、地域漁業者らは地域基盤型資源管理の必要性を理解し、これへの対応で実質的に漁獲量（水揚げ量）が減少し、更に所得が減少する問題にも直面している。これらの解決法として、省力型・省エネルギー型で環境に優しく、価値の高い魚がとれる小型定置網漁業への転換や漁獲された魚の有効利用や付加価値向上による所得向上・生活レベルの向上を希望している。なお、この事業はマレーシアにおける先進的パイロット事業として行われることで、この成果はマレーシア国中へ展開することで、この地域のみならず、マレーシア全体の漁業者および地域の生活レベルの向上につながる。
4. プロジェクト目標	プロジェクトサイトにおける定置網と漁獲物の有効利用による地域活性化モデルが形成される。
5. 対象地域	Sungai Sembilang・クアラセランゴール州
6. 本事業の対象となる人々	Sungai Sembilangに居住しSUPERに加盟している漁業者50名、水産局職員2名および関係する住民30名。
7. 事業活動と期待される変化	<p><活動></p> <p>1-1. 定置網の基礎一般と運用に関する技術研修の実施</p> <p>1-2-1. 1.1で得られた知識の定着とプロジェクトサイトへの応用・普及を図るためのワークショップ実施</p> <p>1-2-2. マレーシア型の定置網漁業制度立案のワークショップの実施</p> <p>2-1. 漁獲物の調理・加工・販売方法に関する研修の実施</p> <p>2-2. 地域に特化した漁獲物の調理・加工・販売方法について考案するワークショップの実施</p> <p>3. お魚祭り・定期市の試行</p> <p><期待される変化></p> <p>1. マレーシアにおいて、小型定置網がより深く理解され、導入に関する制度の基盤が形成される。2. 地域特有の魚の利・活用および販売に関する取組みがはじまる。</p>
8. 実施期間	2019年11月～2022年10月（3年0ヵ月）
9. 事業費概算額	9,555千円
10. 事業の実施体制	<p>本学の教員・学部学生および学部事務組織による本事業実施部会を形成し、各支援は業務や活動ごとに教員および学部学生による主担当者とその他の人員による実活動グループを構成して推進される。会計処理を含む事務処理は学部事務組織と実活動グループの事務担当の共同で行う。JICAおよび現地とのコミュニケーションはプロジェクトマネジャーが主として行う。</p> <p>マレーシア側は、前フェーズから活動の中心となっていた地域関係者らおよび水産局HQとセランゴール支局職員から構成されるタスクフォースを構成して活動を推進する。日本側と現地は合同委員会を形成し、意思疎通と事業の円滑な実施を図る。コミュニケーションは、プロジェクトマネジャーと現地タスクフォースリーダーとで行なう。</p>
II. 提案団体の概要	
1. 団体名	鹿児島大学
2. 活動内容	教育研究